

令和元年度 9月号

めいか

令和元年9月2日
文京区立明化幼稚園

土地が物語ること

園長 御手洗 竹代

7月に梅雨が明けてから、8月は一転して猛暑の日々、皆様いかがお過ごしでしたか。この季節、健康に過ごすだけでも大変だったことでしょうか。少し涼しくなって、大勢の子どもたちが、友達と遊びたい気持ちを一杯にして、園に戻ってくるのを楽しみにしていました。

6月から進んでいた庭の埋蔵文化財調査もいよいよ佳境となりました。現場監督さんは「予想以上に出土しましてね」とおしゃっていました。江戸時代の古地図「江戸切絵図区分図」（尾張屋版）を見ると、明化幼稚園のあたりは、徳川御三卿の一つである、「一橋刑部卿」と記されています。広い敷地にお屋敷があって、そこでは子どもたちも暮らしていたのでしょうか。手元の地図は文政元年（1818年）とありますので、およそ200年前です。今と変わらぬ人の暮らしがあり、子どもたちは、泣いたり怒ったり、笑ったりして、健やかに育っていたことでしょうか。ほんの数メートル下に埋まっていた文化財から当時を想像するのは時間旅行をするようで、楽しいひと時でした。

そして、令和元年を生きる子どもたちも、この地域で夏の暮らしを満喫したことと思います。園にきていた子どもの会話からは「セミが鳴いているよ」「野菜が大きくなっていた」「クワガタはもう動かなくなったから、土に埋めたんだ」と見たこと、気付いたことを話していました。

9月には簸川神社のお祭りがあります。先ほどの古地図にもほぼ同じ位置に「氷川社」という文字が記されています。200年もの間、同じ場所で、子どもたちの生活に関わっていることを思うと、面々と続く人の暮らしを想像します。この土地で育つ子どもたちが、今もこれからも、地域の中で暮らしていくことを強く思った夏でした。

10月頃には文化財調査が終わり、いよいよ小学校仮校舎の建築に向けて、先行工事が入ります。工事は続きますが、安全な環境の維持と、屋上などの活用による遊び場の工夫を引き続き行っていきます。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。



古地図と遺跡跡



よく育った屋上の野菜も

